

柔道しずおか

平成30年3月 静岡県柔道協会発行

事務局 〒422-8004 静岡市駿河区国吉田5-1-1 公益財団法人 静岡県体育協会内 静岡県柔道協会事務局
 TEL 090-1832-9084 FAX 055-988-3611
 メール shizuokajudo5803@yahoo.co.jp

【巻頭言】

今後の本県柔道協会の発展をめざして

静岡県柔道協会副会長 七段 間 宮 幸 男



形成の重要さを教えてきました。

協会役員としては、平成5年度から強化委員を、野田昭一委員長（現会長）の下、強化スタッフ

を組織化して県内の中高生の競技力向上を図り、東海ブロックの壁

を破り、国体本大会出場を至上命令として、合宿を重ね切磋琢磨し、

各種別で出場権を確保してきた中で、少年男子のコーチとして、平成10年神奈川国体では、少年男子

が念願の4位入賞を勝ち取りました。平成15年には、静岡国体柔道

競技が浜北市（現浜松市浜北区）で開催が決定し、少年男子の監督

という重責を負い、選手強化を図り、戦い続けていくのは困難でしたが、素晴らしい強化スタッフ達

と試行錯誤しながら本大会に臨み、8位入賞、競技別天皇杯4位

を勝ち得たものでした。その後も強化委員として競技力向上に努め

て、平成25年東京国体では、成年女子の監督として、金田結花選手

（浜松商業高出身）、村山のぞみ選手（市立沼津高出身）、土屋文香

選手（東海大静岡翔洋高出身）を擁して決勝まで上り詰め、強化選

手が数多くいる千葉県と互角に渡

り合い、堂々の準優勝を勝ち取り、競技別皇后杯では3位という成績

を取ることができました。3選手は、国体県代表のユニフォームを着たという自信を持って、失敗を恐れずにやれたことが勝利に繋がったと思います。強化スタッフ並びに協会関係者と喜びを分かち合うことができました。

本年度は世界選手権男子73kg級で優勝した橋本壮市選手（パーク

24・浜松市出身）が階級変更や怪我を乗り越え、初出場初優勝した

ことをマスクミで大きく取り上げられました。2020年東京五輪

では金メダルを狙っていると、浜松市に報告に訪れたときに言っていました。なお浜松市では、東京

五輪を前にして、ブラジルナショナルチームが事前合宿を雄踏地区に

内定をして、身近で世界レベルの柔道が見られるという経験ができることは、この上ない機会だと思います。

しかしながら、本県の柔道界を取り巻く環境は非常に厳しいもの

があり、柔道人口の減少は続いています。その要因として、スポーツの多様化、少子化による児童・

生徒数の減少から、全国で進む小中学校や高校の統廃合、生徒数が

減れば顧問がいらないために部活動が存続できなくなったりするな

どの支障が出てきて、柔道離れに歯

止めが利かない状況があり、折角

小学生以下の子ども達を主体として、少年柔道が地域に根ざし、熱い気持ちを持って指導をしても先細りをしてしまう形になってしま

います。2020年東京五輪では、マスメディアで柔道を取り上げる比率は非常に多くなると思いますので、各国の代表選手を間近で観戦して、名選手に出会い、柔道の素晴らしさを見つけ、共に感動を

して、今より多くの子ども達に夢を与えられて、少年チームが増え

れば、地域も活性化し、競技力も向上し、競技人口も増加して、ファ

ンの数も増えれば、人気もアップすると思いますので、役員、会員

が一丸となってそれらの諸問題を解決して、一步一步前進したいと思

います。

結びに、静岡県柔道協会の益々の普及・発展を祈念申し上げ、拙

文を終わります。



第72回

国民体育大会柔道競技報告

今年度より国体予選並びに参加手順や種別に大きな変更がありました。まず少年女子・成年女子が廃止され、新たに女子(五人戦)という種別で設置されました。次に年度により本戦出場があらかじめ決定している種別や、従来どおり東海予選を勝ち抜いて本戦出場を獲得する種別に分かれるようになりました。今年度は少年男子が東海予選なしで本戦出場を獲得しました。女子は東海予選を勝ち抜いて本戦出場を果たしましたが、成年男子は残念ながら東海予選で敗退し、本戦出場はかきませんでした。

以下、少年男子監督並びに女子監督による国体報告をいたします。

少年男子

愛媛国体を終えて

国体少年男子監督 小柳津敬博

今年度の国民体育大会の少年男子は47都道府県すべて参加できる年になりました。国体柔道競技の方法が新しくなり大変良い年に監督として参加させていただきました。光栄を感じております。また、本校生徒も2名参加することができ大変有意義な大会に

なりました。以下に試合結果を報告いたします。



〈一回戦〉静岡県5-0鳥取県

先鋒 山本蒼良 ○(反則勝ち) 岸本悠希

序盤から積極的に攻撃に出た山本選手。相手が技を出す暇を与えず、自分のペースを貫いた戦い方であった。残り30秒を切ったところで相手に3つめの指導が与えられ反則勝ちを収めた。

次鋒 坂本航輝 ○(背負落) 小田竜誠

先鋒戦のよい流れを受けて果敢に攻撃を仕掛ける坂本選手。背負落で一本かと思われたが、相手もしぶとく残り技ありの判定。そのまま試合時間終了となった。

中堅 重田幸大 ○(横四方固) 上灘 元

開始早々相手を崩してそのまま抑え技に入る。素早い動きと決して相手を逃がさない万全の体勢で一本勝ちを収めた。この勝利で2回戦進出が確定した。

副将 米山竜生 ○(大内刈) 奥田颯斗

開始直後の足技が抜群の切れを見せた。一閃の大内刈で一本勝ちを収めた。

大将 高木一石 ○(払腰) 山崎駿太郎

試合開始5秒、高木選手の左払腰が豪快に決まって一本勝ち。

〈一回戦〉静岡県0-2千葉県

先鋒 山本蒼良 (隅落) ○市川龍之介

千葉の先鋒(60kg級)市川選手は、春の選手権大会とインターハイ個人を制した強敵。対する山本選手は2年生ながらイ

ンターハイ個人で5位入賞した実力者。相手がまだ体が十分動いていない序盤もつれ合った時に技ありを先取したが、残り1分を切ったところで逆転の一本負けを喫してしまった。

次鋒 坂本航輝 (引き分け) 岩下玄太

両者積極的に攻撃を仕掛けるも、あと一步のところポイントを奪えない状況が続いた。非常に惜しい試合であったが、後に続く3年生に良い流れを引き寄せてくれた。

中堅 重田幸大 (僅差) Ⓚ板東虎之輔

先鋒・次鋒と2年生が頑張りをかせていたので、ここから登場する3年生3人に一層の奮闘を期待した。しかし相手も実力者で重田選手の技もうまく封じられてしまった。結果的に指導差で負けてしまったが、後ろの二人にうまくバトンをつないでくれたのではないかと感じさせる試合内容であった。

副将 米山竜生 (引き分け) 畠山竜弥

この試合で勝利をしないと次の戦いに駒を進められないといった状況の中、インターハイ個人100kg級5位入賞の米山選

手は積極果敢に勝負を挑む。しかし相手も警戒して十分な組み手にさせてくれない。一進一退の攻防が続くも、時間切れとなった。

大将 高木一石 (引き分け) 大淵泰志郎

いよいよ大将戦。高木選手は春の全国高校選手権大会無差別級3位の実力者。なんとか一矢報いるべく、技を仕掛けるものの相手の大淵選手もなかなか強敵で、試合の主導権争いが続いた。お互い技を出すものの、決定打にはならず時間終了を迎えた。

〈総括〉

今回の静岡県チームは、先鋒・次鋒と2年生が活躍し、後ろの3年生が正々堂々と戦ってくれたというスタイルであった。来年は東海地区から2チームのみの参加になるので、2年生の若い選手の活躍は来年度本大会出場への希望につながったと思われる。最後になりましたが各所属の監督の先生方の協力と、遠く愛媛県武道館まで応援に来ていただき感謝申し上げます。

女子

藤枝順心中学高等学校 沼野由香利 本年度から成年女子及び少年女子種別は、女子に統一され52



kg以下の先鋒(少年)、57kg以下の次鋒(成年)、52kg超〜63kg以下の中堅(少年)、63kg超〜78kg以下の副将(少年)、体重無差別の大將(成年)の5人試合は、トーナメント方式による団体戦で行われた。

選手たちは静岡県チームとしての役割を果たそうと大変頑張ってくれた。

試合についてそれぞれの選手に感想・反省を書いてもらった。今回の経験、反省が今後の彼女たちの柔道人生に活かってくるはずである。

〈一回戦〉静岡県2-1富山県

(先方) 渋谷 舞×沢辺咲紀

初めから投げることだけに集中すると動きが止まってしまいうため、攻め方に工夫をし、指導を取れることが出来た。背負い投はうまく技に入ることが出来たが、キメが甘かったのでポイントを取ることができなかった。

(次鋒) 谷川美歩 (技あり)

○細川信子

相四つの相手に対し組勝ち、小外刈りで押しついていたところ切り替えされてしまいました。その後、寝技で抑え込むチャンスがあったが決めきることができなかった。

(中堅) 杵淵 萌○内股 番匠 美沙貴

相手は、腰を引いている選手だったため、積極的に内股を掛けたが何度かすかさず外股に変わった。

しかし、諦めることなく最後まで内股で投げようと掛け続け、一本を取ることが出来た。

(副将) 澤崎莉子○反則勝ち

橋本美咲

力が伝わりにくい相手だったので、技を掛けたら投げ切るこ

とと攻め続けることを意識して試合を行った。

その結果、相手に指導3を与えることができ、勝つことができた。

(大將) 滝川真央×松田美悠

試合開始から自分のペースで試合を進めることができ、指導2まで取りきることができたが、試合後半は逆に相手に攻められ引き分けで終わった。

投げられはしなかったが、相手の技を捌ききれず危ない場面があったので気を付けたい。

〈二回戦〉静岡県1-2千葉県

(先方) 渋谷 舞×横山澄香

相手は、寝技が得意の選手だったために寝技に付き合わないよう気をつけた。

攻め方を工夫し、指導を取ることができたが、場外指導を受けてしまい、引き分けで終わってしまった。

試合最後まで攻めきるといことが大切だということが分かった。

(次鋒) 谷川美歩×長野七海

相手は長身選手で間合いを取りながら組み手をしてくる選手だったため、上手く組み手を行うことができなかった。特に釣

り手を取ることが遅く、両袖を持った状態でしか技を仕掛けることができなかった。

(中堅) 杵淵 萌○(技あり)

川城莉子

落ち着いて相手をよく見て、自分の柔道をする事ができた。内股で投げる事が出来たが、キメが甘く一本を取ることが出来なかった。

(副将) 澤崎莉子(僅差)○吉田菜美

攻めが遅く指導2で負けてしまった。どんな相手でも、積極的に攻撃しどんな形でも勝つことが大切だと感じました。

(大將) 滝川真央 横四方固○緒方亜香里

体がよく動いていて、足技も出すことができ、指導一つを取ることができたが、組み手は相手も上手なのでなかなか思うように組ませてもらえず、中途半端に技を掛けたところを関節で腕を決められ抑えられてしまった。

第59回

静岡県柔道祭開催

平成29年11月19日、藤枝市前島の静岡県武道館にて、第59回

静岡県柔道祭が開催された。試合に先立って特別功労章、永年功労章、功労章、奨励章、優秀指導者章、優秀選手章の表彰が行われた。

表彰者は以下のとおりである。

〈特別功労章〉

- 岩崎勝壽 八段
- 高田 徹 八段
- 斉藤圭司 七段
- 赤池進司(故人) 八段

〈永年功労章〉

- 垣野明彦 七段
- 内海隆治 七段
- 内藤克巳 八段

〈功労章〉

- 土屋弥生 六段
- 竹島政幸 七段
- 田中 隆 五段

〈奨励章〉

- 井村秀明 五段



松岡政文 四段
山口雄一 五段
菊池隆 四段
谷川尚 四段
宮島紳幸 五段
伊藤路照 五段

〈優秀指導者章〉
新村 覚(和道場)

〈優秀選手章〉
森近 颯(和道場)

☆平成29年度全国小学生学年別柔道大会6年女子45kg級第2位
宇津山英弥(浜松市立湖東中学校)

☆平成29年度第48回全国中学校柔道大会男子73kg級第3位
米川明穂(藤枝順心高校)

☆2017サンティアゴ世界カデ柔道選手権大会女子70kg超級第3位

静岡県チーム

川合 遼(藤枝柔道倶楽部)
渡邊誉一(伊豆長岡柔道会)

眞田諒太(藤枝柔道倶楽部)
冲山 智(静岡東部柔道クラブ)

杉山彪馬(清水町柔道会)
☆文部科学大臣杯争奪第26回日整全国少年柔道大会(団体)第3位

なお優勝チーム並びに優秀選手は以下のとおりである。

小学生団体
1位 清水町柔道会

中学男子団体
1位 静岡学園

中学女子団体
1位 東海大静岡翔洋高校中等部

高校男子団体
1位 東海大静岡翔洋高校
高校女子団体
1位 藤枝順心

一般団体
1位 静岡刑務所

優秀選手
小学生
杉山彪馬(清水町柔道会)

長屋 進(育誠館道場)
中学男子
辻本龍基(静岡学園)

渡邊爽偉(育誠館道場)
中学女子
渡辺麻唯乃(東海大静岡翔洋高校中等部)

望月珠樺(市立沼津高校中等部)
高校男子
村松孝紀(東海大静岡翔洋高校)

杉山諒馬(加藤学園)
高校女子
向尾知妃(藤枝順心)

百井優佳(東海大静岡翔洋高校)
一般
須藤行義志(静岡刑務所)

飯川夢次郎(富士柔道会A)

各種大会の報告

第39回全国高等学校柔道選手権大会

平成29年3月19日~20日

日本武道館

個人男子
60kg級
石川俊介(加藤学園)
2回戦敗退

66kg級
橋口 雄(静岡学園)
2回戦敗退

73kg級
小笠原一貴(藤枝明誠)
5位

81kg級
鍵山 潤(日大三島)
3回戦敗退

無差別級
高木一石(湖西)
3位

女子48kg級
渋谷 舞(東海大静岡翔洋)
5位

52kg級
中村愛香莉(藤枝順心)
5位

57kg級
山上春奈(藤枝順心)
5位

63kg級
杵淵 萌(東海大学静岡翔洋)
3位

無差別級
澤崎莉子(東海大学静岡翔洋)
2回戦敗退

団体男子
東海大学静岡翔洋
3回戦敗退

女子
藤枝順心
2回戦敗退

平成29年度全日本カデ柔道体重別選手権大会

平成29年4月9日

大阪府立門真スポーツセンター
東和薬品RACTBAドーム
女子48kg級
渋谷 舞(東海大静岡翔洋)
優勝

52kg級
中村愛香莉(藤枝順心)
2位

57kg級
百田久佳(藤枝順心)初戦敗退
袴田佳名瑚(藤枝順心)初戦敗退

第37回全国少年柔道大会

平成29年5月5日 講道館

藤枝柔道倶楽部5-10
旭日柔道場(長野)

藤枝柔道倶楽部2-13
有朋柔道塾(広島)
予選リーグ敗退

平成29年度東海学生柔道夏季優勝大会

平成29年5月21日

愛知県武道館

男子団体
静岡産業大学
2回戦敗退

女子団体(3人制)
静岡産業大学
3位

第14回静岡県小学生学年別柔道大会兼全国小学生学年別柔道大会県予選

平成29年5月21日

於：静岡市北部体育館
男子5年生
45kg級
1位 岡本篤弥(静岡錬心館)

45kg超級
1位 眞田諒太(藤枝柔道倶楽部)

男子6年生
50kg級
1位 寺田葵依(柔好会)

50kg超級
1位 冲山 智(静岡東部柔々)

女子5年生
40kg級
1位 金子穂尚美(清水町柔道会)

40kg超級
1位 鈴木千夏(浜北ボーン少年団)

女子6年生
45kg級
1位 森近 颯(和道場)

45kg超級
1位 里見奏来(清水町柔道会)

平成29年度関東警察柔道大会

平成29年6月22日

関東管区警察学校
団体A組予選リーグ敗退

第1試合 静岡1-3埼玉
第2試合 静岡0-6警視庁

女子個人

- 村瀬由樹 (静岡県警察) 2回戦進出
- 原田祐花 (静岡県警察) 2回戦敗退

平成29年度全日本ジュニア体
重別選手権大会静岡県予選

平成29年6月24日

静岡県武道館

男子

- 55 kg級 1位 石川俊介 (加藤学園)
- 60 kg級 1位 山本蒼良 (東海大静岡翔洋)
- 66 kg級 1位 橋口 雄 (静岡学園)
- 73 kg級 1位 坂本航輝 (静岡学園)
- 81 kg級 1位 服部 滯 (静岡産業大)
- 90 kg級 1位 田倉淳ノ介 (加藤学園)
- 100 kg級 1位 大橋海斗 (日大三島)
- 100 kg超級 1位 長屋 友 (加藤学園)
- 女子 48 kg級 1位 渋谷 舞 (東海大静岡翔洋)
- 52 kg級 1位 中村愛香莉 (藤枝順心)

57 kg級

- 1位 袴田佳名瑚 (藤枝順心)

63 kg級

- 1位 杵渕 萌 (東海大学静岡翔洋)

70 kg級

- 1位 梶田珠来 (藤枝順心)

78 kg級

- 1位 澤崎莉子 (東海大学静岡翔洋)

78 kg 超級

- 1位 米川明穂 (藤枝順心)

平成29年度全日本学生柔道優
勝大会

平成29年6月24日、25日

日本武道館

女子団体3人制 1回戦

静岡産業大1-2大東文化大

静岡県成年柔道体重別選手
権大会

平成29年7月17日

静岡県武道館

60 kg級

- 1位 小林大貴 (中央大学)

73 kg級

- 1位 大木恭介 (静岡県警察)

90 kg級

- 1位 山田知輝 (帝京科学大学)

無差別

- 1位 滝川英克 (静岡県警察)
- 2位 花村恭介 (JR東日本)

3位 飯沼元紀 (静岡県警察)

全国高校総体

平成29年8月8日~11日

郡山総合体育館

団体男子

- 加藤学園 1回戦2-1箕島 (和歌山)
- 2回戦1-2新田 (愛媛)

女子

- 藤枝順心 2回戦1-①天理 (奈良)

個人

- 男子 60 kg級 山本蒼良 (東海大静岡翔洋) 5位

66 kg級

- 矢萩奨真 (東海大静岡翔洋) 1回戦敗退

73 kg級

- 小笠原一貴 (藤枝明誠) 1回戦敗退

81 kg級

- 鍵山 潤 (日大三島) 2回戦敗退

90 kg級

- 重田幸大 (日大三島) 2回戦敗退

100 kg級

- 米山竜生 (東海大静岡翔洋) 5位

100 kg 超級

- 高木一石 (湖西) 2回戦敗退

女子 48 kg級

- 渋谷 舞 (東海大静岡翔洋) 1回戦敗退

52 kg級

- 中村愛香莉 (藤枝順心) 2回戦敗退

57 kg級

- 山上春奈 (藤枝順心) 2回戦敗退

63 kg級

- 杵渕 萌 (東海大学静岡翔洋) 5位

70 kg級

- 池田紗也 (藤枝順心) 2回戦敗退

78 kg級

- 山本 杏 (藤枝順心) 1回戦敗退

78 kg 超級

- 竹川瑠奈 (富士市立) 1回戦敗退

第70回静岡県中学校総合体
育大会柔道競技

平成29年7月27日、28日

静岡県武道館

団体男子

- 1位 長岡中学校
- 2位 静岡学園中学校
- 3位 東海大学静岡翔洋高校 中等部

3位 高台中学校

女子

- 1位 東海大学静岡翔洋高校 中等部
- 2位 藤枝順心中学校
- 3位 市立沼津高校中等部
- 3位 引佐南中学校

男子 50 kg級

- 1位 源平琉真 (東海大学静岡翔洋高校中等部)
- 2位 鈴鹿睦月 (高台)
- 3位 大賀弘渡 (市立沼津高校中等部)
- 3位 小山仁志 (清水第二)

55 kg級

- 1位 加藤遼馬 (長岡)
- 2位 菅谷尚優 (高台)
- 3位 池沼 尋 (積志)
- 3位 山本遙斗 (函南)

60 kg級

- 1位 成田魁星 (富士南)
- 2位 福澤翔太郎 (日大三島)
- 3位 岡村羽奏 (東海大学静岡翔洋高校中等部)
- 3位 服部航太 (湖東)

66 kg級

- 1位 吉田篤申 (聖霊リネア)
- 2位 鈴鹿功織 (高台)
- 3位 岡本神吾 (静岡学園)
- 3位 長澤篤希 (静岡学園)

73 kg級

- 1位 宇津山英弥 (湖東)
- 2位 宇佐美一誠 (富士)
- 3位 福田翔太 (静岡学園)
- 3位 酒井聖矢 (大富士)

81kg級

- 1位 岡村羽詞 (東海大学静岡翔洋高校中等部)
- 2位 渡邊爽偉 (東海大学静岡翔洋高校中等部)

90kg級

- 3位 若田部桔平 (長岡)
- 3位 伊藤祥真 (引佐南部)
- 1位 矢崎洋介 (岳陽)
- 2位 植松大郎 (大富士)
- 3位 荒 誠人 (静岡学園)
- 3位 林 恭平 (高台)

90kg超級

- 1位 小田春樹 (長岡)
- 2位 増田孝貴 (北浜)
- 3位 蒔田稀翔 (引佐南部)
- 3位 甲田真吾 (城南静岡)

女子40kg級

- 1位 百田久奈 (藤枝順心)
- 2位 太田葉月 (観山)
- 1位 新村侑郁 (浜北北部)
- 2位 大橋 碧 (青島)
- 1位 酒井結花 (北浜)
- 2位 佐藤由舞 (東海大学静岡翔洋高校中等部)

52kg級

- 1位 福田智花 (引佐南部)
- 2位 村松杏樺 (鹿玉)

57kg級

- 1位 杉山月琉 (東海大学静岡翔洋高校中等部)
- 2位 大石紋萌 (観山)

63kg級

- 1位 橋口英子 (静岡学園)
- 2位 渡辺麻唯乃 (東海大学静岡翔洋高校中等部)

70kg級

- 1位 高山美憂 (藤枝順心)
- 2位 四條瑠那 (東海大学静岡翔洋高校中等部)

70kg超級

- 1位 飯田星那 (高台)
- 2位 オトボひなた (鷲津)

第42回全国教員柔道大会

平成29年8月5日 講道館
1回戦 静岡県0-5 神奈川県

第39回東海中学校総合体育大会

平成29年8月8日~9日 静岡県武道館

団体 男子

- 3位 高台中学校
- 3位 長岡中学校
- 5位 静岡学園中学校
- 5位 東海大学静岡翔洋高校中等部
- 女子
- 2位 東海大学静岡翔洋高校中等部
- 5位 藤枝順心中学校

個人男子

50kg級

- 鈴鹿陸月 (高台) 5位
- 源平琉真 (東海大学静岡翔洋高校中等部) 1回戦敗退

70kg級

- 大賀弘渡 (市立沼津高校中等部) 1回戦敗退
- 小山仁志 (清水第二) 1回戦敗退

55kg級

- 加藤遼馬 (長岡) 優勝
- 菅谷尚優 (高台) 5位

60kg級

- 池沼 尋 (積志) 1回戦敗退
- 山本遙斗 (函南) 1回戦敗退
- 成田魁星 (富士南) 2位
- 岡村羽奏 (東海大学静岡翔洋高校中等部) 3位

66kg級

- 服部航太 (湖東) 5位
- 岡本紳吾 (静岡学園) 優勝
- 鈴木功織 (高台) 2位
- 吉田篤申 (聖霊クリストファー) 3位

73kg級

- 長澤篤希 (静岡学園) 5位
- 宇津山英弥 (湖東) 優勝

81kg級

- 酒井聖矢 (大富士) 2位
- 宇佐美一誠 (富士) 3位
- 福田翔太 (静岡学園) 5位
- 岡村羽詞 (東海大学静岡翔洋高校中等部) 2位

- 渡邊爽偉 (東海大学静岡翔洋高校中等部) 1回戦敗退
- 若田部桔平 (長岡) 1回戦敗退
- 伊藤祥真 (引佐南部) 1回戦敗退

90kg級

- 矢崎洋介 (岳陽) 3位
- 植松大郎 (大富士) 1回戦敗退

90kg超級

- 荒 誠人 (静岡学園) 1回戦敗退
- 林 恭平 (高台) 1回戦敗退
- 小田春樹 (長岡) 2位
- 増田孝貴 (北浜) 5位
- 蒔田稀翔 (引佐南部) 1回戦敗退
- 甲田真吾 (城南静岡) 1回戦敗退

女子40kg級

- 百田久奈 (藤枝順心) 3位
- 太田葉月 (観山) 5位
- 新村侑郁 (浜北北部) 2位
- 大橋 碧 (青島) 5位
- 酒井結花 (北浜) 3位
- 佐藤由舞 (東海大学静岡翔洋高校中等部) 5位

52kg級

- 福田智花 (引佐南部) 2位
- 村松杏樺 (鹿玉) 5位

57kg級

- 杉山月琉 (東海大学静岡翔洋高校中等部) 3位

63kg級

- 大石紋萌 (観山) 5位
- 橋口英子 (静岡学園) 3位
- 渡辺麻唯乃 (東海大学静岡翔洋高校中等部) 5位

70kg級

- 高山美憂 (藤枝順心) 優勝
- 四條瑠那 (東海大学静岡翔洋高校中等部) 5位

70kg超級

- 飯田星那 (高台) 3位
- オトボひなた (鷲津) 5位

2017年サンティアゴ世界カテ柔道選手権大会

平成29年8月9日~13日 チリ・サンティアゴ

女子70kg超級

- 米川明穂 (藤枝順心) 3位

第48回全国高等学校定時制通信制体育大会柔道競技

平成29年8月6日 講道館

- 男子団体 3位
- 女子団体 1回戦敗退
- 男子個人

65kg級

- 大川裕生 (三島長陵) 棄権

75kg級

- 飯川竜吉 (沼津工業) 1回戦敗退

90 kg級

守重裕斗(鹿島学園浜松) 優勝

90 kg超級

大賀稜也(富士) 2回戦敗退

女子個人

63 kg級

久保敷さくら(新居) 5位

63 kg超級

木村タエコ(新居) 1回戦敗退

平成29年度第14回全国小学生学年別柔道大会

平成29年8月20日

北海道立総合体育センター

6年生女子 45 kg級

森近 颯 2位

平成29年度全国中学校体育大会第48回全国中学校柔道大会

平成29年8月22日~25日

福岡国際センター

男子団体

Hブロック

長岡0-4埼玉栄(埼玉)

長岡2-②長崎南山(長崎)

予選リーグ敗退

女子団体

Jブロック

東海大学静岡翔洋高校中等部

2-10足利市立第一(栃木)

東海大学静岡翔洋高校中等部

3-10隠岐の島町立西郷(島根) 決勝トーナメント1回戦

東海大学静岡翔洋高校中等部

0-1鎮西敬愛学園敬愛(福岡)

男子個人

個人男子50 kg級

源平琉真(東海大学静岡翔洋高校中等部) 1回戦敗退

55 kg級

加藤遼馬(長岡) 3回戦敗退

60 kg級

成田魁星(富士南)

2回戦敗退

66 kg級

吉田篤申(聖霊クリストファー) 2回戦敗退

73 kg級

宇津山英弥(湖東)

3位

81 kg級

岡村羽詞(東海大学静岡翔洋高校中等部) 2回戦敗退

90 kg級

矢崎洋介(岳陽) 2回戦敗退

90 kg超級

小田春樹(長岡) 5位

女子40 kg級

百田久奈(藤枝順心)

44 kg級

新村侑郁(浜北北部) 1回戦敗退

48 kg級

酒井結花(北浜) 2回戦敗退

52 kg級

福田智花(引佐南部) 2回戦敗退

57 kg級

杉山月琉(東海大学静岡翔洋高校中等部) 2回戦敗退

63 kg級

橋口英子(静岡学園) 2回戦敗退

70 kg級

高山美憂(藤枝順心) 5位

70 kg超級

飯田星那(高台) 2回戦敗退

平成29年度東海学生柔道体重別選手権大会

平成29年8月26日

愛知県武道館

女子52 kg級

石川朋佳 2位

嘉納治五郎記念ウラジオストクトク日露ジュニア交流大会

平成29年9月4日

ロシア・ウラジオストク

男子100 kg超級

高木一石(湖西) 3位

平成29年度全国警察柔道選手権大会

平成29年9月5日

日本武道館

男子66 kg級

大木恭介(静岡県警) 2回戦進出

100 kg級

飯沼元紀(静岡県警) 初戦敗退

100 kg超級

滝川英克(静岡県警) 3回戦進出

女子63 kg以下級

原田祐花(静岡県警) 2回戦進出

63 kg超級

村瀬由樹(静岡県警) 2回戦進出

平成29年度全日本ジュニア体重別選手権大会

平成29年9月9日、10日

埼玉面武道館

男子100 kg級

大橋海斗(日大三島) 1回戦敗退

女子48 kg級

渋谷 舞(東海大静岡翔洋) 4位

52 kg級

中村愛香莉(藤枝順心) 2回戦敗退

平成29年度東海定時制通信制高等学校体育大会柔道競技

平成29年9月10日

三重県鈴鹿市武道館

男子65 kg級

3位 大川裕生(三島長陵)

75 kg級

1位 飯川竜吉(沼津工)

90 kg級

1位 白井翔祐(浜松大平台)

90 kg超級

3位 大賀稜也(富士)

女子63 kg級

2位 久保敷さくら(新居)

平成29年度全日本学生柔道体重別選手権大会

平成29年10月1日

日本武道館

女子52 kg級

石川朋佳(静岡産業大) 1回戦敗退

平成29年度全国警察柔道大会

平成29年10月17日

日本武道館

団体

第2部一次リーグ敗退

第1試合 静岡0-3広島

第2試合 静岡2-1岐阜

平成29年度全日本形競技大会

平成29年10月22日 講道館

投の形

渡部成也(静岡県警) 5位

固の形

森田賢一(JR東海) 11位

極の形

小椋俊彦(静岡県警) 9位

古式の形

渡邊達也(静岡県警) 7位

平成29年度秋季定通制高等学校体育大会柔道競技

平成29年11月5日

三島長陵高校

男子団体

1位 浜松工業

男子個人

65kg級

1位 大川裕生(三島長陵)

2位 飯川竜吉(沼津工)

3位 高橋夏樹(小山)

75kg級

1位 ロドリゲスビートルサトウ(富士)

2位 中嶋恒鷹(浜松大平台)

90kg級

1位 大村マサシ(浜松工)

2位 白井翔祐(浜松大平台)

90kg超級

1位 大賀稜也(富士)

2位 内田雄基(三島長陵)

女子個人無差別

1位 鈴木海生(鹿島浜松)

2位 VU TIN HAO(浜松工)

3位 伊藤栄理子(鹿島浜松)

平成29年度東海学生柔道冬季優勝大会

平成29年11月19日

愛知県武道館

男子団体

静岡産業大学 2回戦敗退

女子団体

静岡産業大学 1回戦敗退

平成29年度静岡県柔道祭

平成29年11月19日

静岡県武道館

小学生団体

1位 清水町柔道会

2位 育誠館道場

3位 藤枝柔道倶楽部

3位 伊豆長岡柔道会

中学男子団体

1位 静岡学園

2位 育誠館道場

3位 大仁柔道会

3位 東海大静岡翔洋高校中等部

中学女子団体

1位 東海大静岡翔洋高校中等部

2位 市立沼津高校中等部

3位 友愛道場

3位 藤枝順心

高校男子団体

1位 東海大静岡翔洋高校

2位 加藤学園

3位 浜松商業

3位 静岡学園

高校女子団体

1位 藤枝順心

2位 東海大静岡翔洋高校

3位 富士市立高校

3位 市立沼津高校

一般団体

1位 静岡刑務所

2位 富士市柔道会A

3位 東海翔洋クラブ

3位 静岡産業大学A

優秀選手

杉山彪馬(清水町柔道会)

長屋 進(育誠館道場)

中学男子

辻本龍基(静岡学園)

渡邊爽俣(育誠館道場)

中学女子

渡辺麻唯乃(東海大静岡翔洋高校中等部)

望月珠樺(市立沼津高校中等部)

高校男子

村松孝紀(東海大静岡翔洋高校)

杉山諒馬(加藤学園)

高校女子

向尾知妃(藤枝順心)

百井優佳(東海大静岡翔洋高校) 一般

須藤行義志(静岡刑務所)

飯川夢次郎(富士柔道会A)

平成29年度第34回静岡県大 学高専青年柔道大会

平成29年12月16日

静岡産業大学経営学部柔道場

男子の部

団体の部

1位 静岡産業大A

2位 静岡産業大B

3位 東海大学海洋学部B

3位 東海大学海洋学部A

男子個人の部

66kg級

1位 秩父亮介(静岡産業大)

2位 熊野暢彦(東海大)

3位 平島知希(東海大)

3位 中島泰星(東海大)

81kg級

1位 早坂大志(静岡産業大)

2位 笠間 正(静岡産業大)

3位 荒木大地(東海大)

81kg超級

1位 工藤史哉(静岡産業大)

2位 石川弥明(静岡産業大)

3位 鈴木施比亜(静岡産業大)

3位 尾藤 隼(静岡産業大)

無段の部

1位 依田隼翠(東海大)

2位 三浦裕ノ亮

女子の部

1位 新倉舞音(静岡産業大)



平成29年度静岡県高等学校 新人体育大会柔道競技 兼 第40回全国高等学校柔 道選手権大会静岡県予選

平成30年1月13日、21日

静岡県武道館

個人戦

男子60kg級

1位 山本蒼良(東海大学静岡翔洋)

66kg級

1位 寺内遼太郎(浜松商業)

73kg級

1位 角田英知(東海大学静岡翔洋)

81kg級

1位 村松孝紀(東海大学静岡翔洋)

無差別級

1位 熊谷健太(加藤学園)

女子

48kg級 1位 渋谷 舞(東海大学静岡翔洋)

52kg級

1位 中村愛香莉(藤枝順心)

57kg級

1位 袴田佳名瑚(藤枝順心)

63kg級

1位 向尾知妃(藤枝順心)

無差別級

1位 米川明穂(藤枝順心)

団体戦

男子優勝 加藤学園高等学校
女子優勝 東海大学静岡翔洋高校

各階級1位及び団体優勝チームは平成30年3月、日本武道館にて開催される全国大会に出場。

全日本柔道選手権大会(男女) 静岡県予選会

平成30年1月27日

静岡県武道館

男子

1位 齋藤光星(早稲田大学)
2位 滝井英克(静岡県警)
3位 長屋 友(加藤学園高)

女子

1位 原田祐花(静岡県警)
2位 村瀬由樹(静岡県警)

*上位二名は、平成30年3月4日に愛知県武道館にて行われる東海地区予選に出場。

柔道普及活動

中部地区

笑顔があふれる柔道教室

平成29年12月3日、静岡北部体育館にて少年柔道教室が開催された。

今回の柔道教室には、全柔連から中田善久先生、後藤徳子先生、さらには北海道旭川市在住の上野和香子先生が講師として参加された。上野先生のお話に続き、風船やバランスボール、フラフープといった道具を用いた練習に、参加した小学生や園児、さらには指導者の先生方も熱中して取り組んでいた。後藤先生のテンポの良い声かけに、反応よく行動する受講生には常に笑顔が満ちていた。学校や道場で指導されている先生方も、子ども達の笑顔につられてか、常に穏やかな表情で笑顔が絶えない様子であった。帯を用いた大縄跳びでは、各グループに自然に分かれ、自分たちが設定した目標をクリアすべく話し合いをするなど目標設定の大切



さ、努力することの尊さを体験できたと思われる。

今回の柔道教室には柔道未経験者の園児や小学生も参加していた。そうした子ども達に受け身の基本姿勢や座礼・立礼といった礼儀作法を指導する面もあった。上手にできれば全員で拍手をするなど、常に楽しい雰囲気の中で会が進んでいた。参加した小学生・園児は約100名。柔道人口を増やしていくために、普及活動に力を入れて行くことも大切だと感じた一日であった。

県下を巡る

十一月二十四日、二十五日の

二日間に渡り、今年度第一回目の県トレセン強化練習会が行われた。今年度は二〇二〇年の静岡全中に向けた強化の取り組みとして、全国より強豪校を招き、練習会を行った。男子は、県外から「大成中学校」「埼玉栄中学校」「南淡中学校」、女子は県外から「前橋育英高校」と県内から藤枝順心高校を招いての練習会となった。全国にその名を轟かせる学校が集まり、静岡県の選手たちにとって大いに刺激となった。

練習会は静岡県の指導者主導のもとで行われたが、大成中学校や埼玉栄中学校にはアップ運動を紹介してもらい、全国区の学校の強さの秘密の一端を垣間見ることができた。練習は打ち



込み、乱取りを中心に行い、少数精鋭の中、充実した時間を過ごすことができた。中には、強豪校のチーム相手に互角以上の力を見せた選手もおり、何よりの自信となったことだろう。

一日目の練習を終えた選手たちが書いた感想文を見ると、強豪校選手たちの強さのみならず、「意識の高さ」や「礼儀正しい挨拶」「練習の盛り上げ方」などに感銘を受けた者が多くいたことが分かる。表面的な部分だけでなく、その根底にあるものに気づけたことは、大きな収穫となったと思う。

今回の練習会は選手、指導者共に学び多き練習会となった。この経験が必ずや三年後につながると思う。来年度以降も、このような取り組みをぜひ実施していただきたい。



道場紹介

県内各地でがんばっている「道場」を各地区2道場ずつ紹介します。

- ①名称
- ②住所(練習場所)
- ③連絡先
- ④代表者氏名
- ⑤所属人数

静岡北部柔道クラブ

- ②〒420-0941 静岡市葵区松富4丁目14-1 静岡市北部体育館
- ③静岡市北部体育館 054-255-6262
- ④渡邊達也
- ⑤小学生11人、中学生4人、大学生1人、社会人5人

⑥道場紹介

静岡北部柔道クラブは、公益財団法人静岡市体育協会が主催するスポーツ教室のメンバーからなるクラブです。

教室は、平成9年から静岡市北部体育館で始まり、4か月がひとつの期で、年度で全3期からなります。現在は、月3回火曜日に活動しており、受身の基本や礼法を学ぶことに重きを置いています。

また、初級と上級にグループ分けして練習しますので、初心者でも安心です。

健康な身体と礼儀正しくたくましい精神を養いたいという老若男女どなたでも歓迎します。

見学は随時受付けていますので、一度見学に来てみませんか。



誠勇館

- ②島田市伊太2075-1
- ③同上住所 島田樟誠高等学校 0547-37-3116
- ④中村 航
- ⑤小学生9名、中学生3名、高校生(島田樟誠高校部員)、社会人10名

⑥道場紹介

誠勇館は島田市にある島田樟誠高等学校(当時の島田学園高等学校)武道場を拠点に約10年前に開始しました。以前の島田市は柔道が盛んだった印象もありますが、現在活動している団体は2つしかありません。そこで平成20年度にこの学校に勤務することになったこともあり、夜間開放の一つとして柔道教室を始めました。当初は認知されていませんでしたが、広報活動をしていく中で徐々に人も集まりはじめ、現在は社会人の方がお子さんやお孫さんを連れ一緒に練習する姿を見ることができています。また、毎週水曜日は島田樟誠高校の生徒も参加し合同練習をしています。

新年は1月3日に恒例の初稽古を実施しました。高校と道場が合同で行うため、今年には保護者を含め70名程が参加し盛大なものでした。練習日は月平均8回程度と他の道場に比べ少ないと思えますが底辺拡大、礼儀作法をメインに日々取り組んでいます。強い選手はいませんが、全員が各自の目標を設定し活動しています。また、島田樟誠高校の卒業生を中心とした社会人で実業団登録もし、大会等にも出場しています。試合出場だけが全てではありませんが、生涯スポーツとなってくればと願っています。最後に、今後とも誠勇館をよろしく願います。

浜松養神館

- ②浜松市中区西浅田二丁目2-1 浜松市武道館
- ③〒438-0821 磐田市立野2026-1ベルメゾン豊田805 0538-33-6175
- ④会長 森下 修 理事長 神谷元久
- ⑤小学生19人、中学生13人、高校生1人、大学・社会人30人)

⑥道場紹介

浜松養神館は昭和5年5月佐藤五八郎先生により設立されて以来、諸先輩方のご尽力により、幾多の変遷を経て現在に至っております。稽古の現状については、毎週日、水、金曜日の3回、午後6時30分(日曜日は午後6時)から9時まで浜松市武道館



において稽古に励んでおります。小中学生が多く在籍しているため、礼法や受け身をはじめとして正しい柔道の修得を目的として、養神館は精神を養う館(ところ)「柔道で健康な体と心を養う」ことに重点を置き、柔道修行に励んでおります。

当道場は、他の道場との親睦を深めるため、年に1回養神館柔道大会を開催し、今年で37回目を行うことができました。子供たちが勝って喜び負けて悔しがり、柔道大会で子供たちの成長を見ることが、とても重要であると日々感じております。

近年は、養神館で育った子供達が指導者として道場に戻ってきて活気のある稽古ができています。柔道人口が減少している



状況ですが、当道場は子供の会員が増加してきています。今後柔道の発展に向けて尽力してまいります。

SSU柔道クラブ

- ②静岡県磐田市大原1572-1
静岡産業大学磐田キャンパス内
- ③〒438-0831静岡県磐田市上新屋811-4-A205
- ④岡田紘味
- ⑤小学生14人

⑥道場紹介

SSU柔道クラブは、静岡産業大学磐田キャンパス内柔道場で、毎週水・金曜日、17時半から19時半まで活動しています。小学4年生以下が多い、まだ新しいチームです。

稽古は、礼法や体捌き、崩しなどの基本練習を中心に、しつかり組んで一本取れる柔道を目指しています。稽古の前半には、全身を動かせるよう、身体作り運動をしたり、ドッチボールをしたりと柔道以外の動きも取り入れています。

指導者は、若手が多いですが、子供たちに柔道の楽しさを伝えられるように、1人1人に合わせた指導を心掛け、共に成長していけるように努めています。また、子供たちが中学生や高校生、一般になっても柔道が好きで戻ってきてくれるような道場にしていきたいと思っています。

今後は、大会や合同練習などにも積極的に参加させていただきたいと思っていますので、よろしく願います。たくさん仲間との交流を楽しみます。



伊豆市柔道部

- ②修善寺道場〒410-2407伊豆市修善寺1010
修善寺農村環境改善センター内
- ・土肥道場 〒410-3302伊豆市土肥870-1
伊豆総合高校土肥分校武道場
- ・天城道場 〒410-3215伊豆市月ヶ瀬853
天城中学校武道場
- ③0558-87-0780
- ④井村秀明
- ⑤園児5人、小学生27人、中学生19人
高校生2人、社会人28人

⑥道場紹介

平成十六年、伊豆市誕生を機に、それまでの旧四町ごとの道



場（修善寺柔道会、土肥柔道会、天城柔道会、中伊豆柔道会）を統合し、山口友孝先生（元メキシコナショナルコーチ）を会長として、伊豆市柔道部を発足しました。
現在は井村秀明会長以下、総勢八十一名の会員が、日々厳しい中にも楽しい稽古を積み重ねています。とはいえ、県内で五番目に面積の広い伊豆市であるため、日常の稽古は週二回、旧道場単位で行い、月一回程度、週末に合同稽古を行っています。道場別の稽古では、それぞれの指導者から丁寧で熱のこもった指導を受け、合同稽古では、多くのライバルたちとの力を削り、お互いに高め合っています。そして、合同稽古の最大の利点

は、複数の指導者から多角的な指導や助言、称揚を受けられることです。
伊豆市の子どもたちを伊豆市の指導者全員で温かく見守り育てていくことが、将来の伊豆市の柔道の発展につながるものと確信しています。

富士宮柔道会

- ②〒418-0007
富士宮市外神東町115
富士宮市民体育館内武道場
- ③〒418-0112
富士宮市北山1403
電話090-2947-3569
- ④小林賢治
- ⑤小学生41人、中学生24人、
高校生17人、社会人50人

⑥道場紹介

富士宮柔道会は歴史が長く、大正末期に大宮柔道館としてスタートし、開設九十年になりました。道場は、昭和七年大宮町の大火で焼失、その後は四ヶ所を転々とし、ようやく市民体育館内に本格的な武道場が完成し、現在に至っています。

本会は、柔道の発展と普及、同時に市民青少年の基礎体力向上と、礼儀と人を思いやる人格形成を目的として活動しています。柔道の代名詞でもある「礼に始まり礼に終わる」を重視し、小学生・中学生・社会人の共通の目的として取り組み、強い身体と正しい礼儀を身に付けさせることを伝統とし、日々稽古に励んでおります。



稽古は公認資格指導者が中心となり、週三回（水・金・日）夜七〜九時（小学生は八時）まで行っています。会員は小学生が四十一名、中学生一一般が九十一名の総勢百三十二名が日々精進しています。安全性向上のため、全柔連公認の指導者講習を指導者全員が受け、安全・安心を最優先に努めています。
これからも、柔道を通じて色々な人との出会いと交流を楽しめる町道場を目指し、活動を行っていききたいと思っています。

新人選手紹介コーナー

今年度もこのコーナーを継続することができた。全国大会で3位までに入賞した若い選手（高校生以下）を紹介しており、今年度は8名の個人と1つの県代表チームが該当した。昨年に引き続いての登場となった選手が4名、新たに登場した選手4名と代表チームが1つ。今年度も大いに静岡県柔道界を盛り上げてくれた。



二段 高木一石さん
(湖西高校)

第39回全国高等学校柔道選手権大会
男子無差別級3位

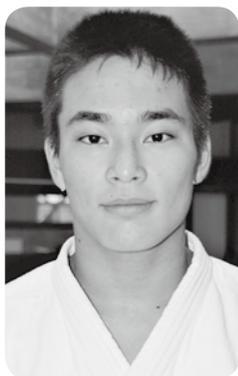
高木選手が柔道を始めたのは、小学校一年生の時。「痩せるため」だったそうです。次第に柔道がおもしろくなり、小4、小5と東海大会で優勝できたことでうれしさを感じたというのでした。技術的なことはあまり考えることもなく、特に組み手などは高校に入ってから川端先生から教わったそうです。川端先生は、基本的なことを繰り返し指導してくださったので、そうしたことがしっかりと身に付いたのだと思うと語ってくれました。

選手権に関しては、「とにかく思い切つてやろう」ということを心掛けたそうです。その思い切りの良さが今回の結果に繋がったのではないかと自己分析してくれました。

またロシア・モンゴル・日本が競い合う国際大会（ウラジオオストク）に参加する機会を得ましたが、体格の大きな選手と試合をしたことが良い経験になったと語ってくれました。パワーの差を特に痛感したそうです。今後の目標としては、筑波大学体育学群への進学が決まったとのこと

で、運動生理学などをはじめとするスポーツ関係の学問を深めていきたいとのことでした。その上で、全日本ジュニアや全日本学生で優勝できるように、努力を継続していきたいと語ってくれました。

指導されている川端先生によると、「こんなに根性のある重量級選手は見たことがない」そうです。また自分にとって今何が足りないかを考え、行動に移すことのできる選手だとも語ってくれました。学業成績も非常に良く、入学してすぐに英検準二級を取得したなど、まさに文武両道を実践した選手でもあるとのこと。大学進学後も自己を見つめながら更に成長していくのではないかと期待しているとのことでした。



初段 宇津山英弥さん
(湖東中学校)

第48回全国中学校柔道大会
男子73kg級3位

宇津山選手が柔道を始めたのは、小学校二年生の時、仲の良かった同級生に誘われる形で始めたとのことでした。振り返れば「勝ち負けよりも相手と全力でぶつかり合うところが魅力だった」と語ってくれました。

小学校時代の戦績は、六年生の時に県大会ベスト16だったそうです。

中学校に進んで、全国大会出場を目標に稽古を積んできたそうです。今回の全国大会では、「一戦一戦全力で取り組もうと思つて戦いました」と爽やかな笑顔で答えてくれました。中学校では生徒会長を務め、学校行事の企画や運営にも積極的にかわつていったそうです。また学習面でも決して妥協することなく、熱心な取り組みを見せているそうです。何事にも積極的に取り組んでいく姿勢が顕著な人物であることがインタビューを通じてよく分かりました。

指導されている杉山崇先生からは「逃げずに前へ出ること」「自信のある技にこだわつて戦い抜く」などといった、精神面でのアドバイスを受けることが多かったそうです。それを実践できたからこそ今回の戦績を残せたのだと思えますと答えてくれました。

今後の目標を聞いてみると、中学校での戦績を上回りたいと、力強く語ってくれました。宇津山選手の今後に期待したいと思います。



森近 颯さん
(和道場)

全国小学生学年別柔道大会
女子6年生45kg級第2位

森近さんは小学1年生の時、偶然見かけた柔道勧誘のポスターを見て練習の見学をしたことが柔道との出会いと語ってくれました。昨年は3位、今年は2位と確実にステップアップしてきたのですが、道場の新村先生によると「真面目な子なので、アドバイスを素直に受け入れ、反復練習してきた」結果だそうです。森近さん自身も「練習の時にはスイッチをオンにして、遊ぶときは切り替えて」といったけじめをつけることを心がけているそうです。全国大会では初戦が最も緊張したけれど、新村先生が「落ち着いてやれば大丈夫。」「自分がやってきたことを信じなさい。」といった言葉をかけてくれたことが印象に残っているとのことでした。「緊張をほぐしてくれた」ことで、2回戦からは動きも良くなつて得意の背負い投げも出るようになったそうです。

「今年度は中学生になるので、一番下からのスタート。先輩たちに少しでも追いつけるよう頑張りたい。」という意気込みも語ってくれました。「できれば全中に出て活躍できるようにしたい。」が今後の目標だそうです。



初段 柵刈 萌さん
(東海大学静岡翔洋高校)

第39回全国高等学校柔道選手権大会
女子63kg級3位

監督の古内先生の言葉を借りれば、「天賦の才に努力という砥石で磨きをかけて。現状に甘んじることなく、常に己に足りないものは何かを真摯に探求し続ける。」のが柵刈さんだそうです。後輩からも「いつも柔道のことを考えている先輩で、すごくストイック。今の自分のできることは何かを考え、たとえばそれがウエイトトレーニングだったとすれば、筋力アップに最も適した方法を取り入れていく」そうです。

得意技である内股はその切れ味は言うまでもないのですが、特に技に入るタイミングが絶妙です。古内先生は続けてこうもおっしゃいました。「高校での戦績は全国三位。確かに素晴らしい成績ではあるけれど本人の中にはもっとできたはずだという意識がある。だからこそ次のステージでは大輪の花を咲かせてもらいたい。世界で通用する力を身に付けてもらいたい」と。勝負師として勝ちにこだわり続ける柵刈さんへの最大級のエールを送ってくれました。



初段 渋谷 舞さん
(東海大学静岡翔洋高校)

平成29年度全日本カデ体重量別選手権大会女子48kg級1位

全日本カデ48kg級で連覇を果たした渋谷さん。そのことについて話を伺おうとしたところ、「インターハイで結果が残せていなかったのが今年のカデでは挑戦者のつもりで戦っていた」という言葉が返ってきました。国体女子の先鋒として本戦に出場しましたが、「先鋒は52kg級以下の選手で、普段の階級よりも一つ上に人たちの対戦ばかりで学ぶことが多い大会」だったそうです。「階級が一つ違うだけでうまく投げることができず非常に悔しかったので、背負い投げでしっかりと投げられるよう、パワーアップしたい」と語ってくれました。監督の古内先生も「本当に柔道が好きで選手で、それが彼女の原動力になっている」と話してくださいました。

今後の目標として「カデからジュニアへと進んでいくので、ジュニアでも勝てるよう、いつでも前を向いて努力していく」と語り、「東京五輪に出て活躍する」ということを掲げてくれました。



初段 中村愛香莉さん
(藤枝順心高校)

平成29年度全日本カデ体重量別選手権大会女子52kg級2位

インタビューを始めると、「昨年は試合開始9秒で一本負けしてしまつて」と前年度の反省から話が始まりました。「だからこそ今年は何が何でも優勝する」という強い気持ちで試合に臨んだそうです。決勝戦ではゴールデンスコアにもつれ込み、「自分が焦つて前に出たところを相手にうまく合わされ」て負けってしまったそうです。敗戦から学ぶことは大きい。その負けを次に生かしてこそ、負けの意味があるはずだ。だからこそ「自分の感情をしっかりとコントロールすることが大切だ」と思い、練習に励んできた「そうです。そのためにも日頃から沼野監督が標榜されている「人間性を磨くこと」が重要になるということを力説されています。

「高校選手権には個人で出場するけれど、団体は逃してしまつたので」と悔しさを口にした中村さん。自分が成長することがチームの力になると語ってくれました。同時に「目の前のことをひとつずつ達成していく」ことで「自分の将来につなが

ていくはず」ということも話してくれました。



初段 米川明穂さん
(藤枝順心高校)

2017年サンティアゴ世界カデ体重量別選手権大会女子70kg超級3位

今回の成績について話を伺ったところ、「実はチリへ行く前にポerlandで試合をする機会があつて」ということを語ってくれました。「ポerlandで試合をした経験が本当に大きかったと思います。外国人選手は体格も大きく、手足も長く、自分が思いもしなかつた間合いから技を仕掛けてくるので最初は戸惑つた」そうです。

ポerlandでの試合相手とは、世界カデ準決勝で再戦したそうです。ポerlandでは勝つた相手でしたが、今回は米川選手を研究してきたように、思いどおりに試合運びができず負けてしまったと語ってくれました。「今後の目標は？」と尋ねると、「近い目標は高校選手権で優勝、もしくは入賞すること」と明言してくれました。同時に「一歩ずつ前に進んでいきたい」という発言もありました。インタビュー全体を通して、常に前

を見据えた発言が多かつたように感じました。最後に将来どんな柔道家になりたいかと聞いたところ、「日の丸を背負つて戦える選手になること」と答えてくれました。

第48回全国高等学校定時制通信制体育大会柔道競技
男子団体戦 3位

先鋒 初段 高橋夏樹
(小山高3年)

次鋒 初段 飯川竜吉
(沼津工3年)

中堅 初段 守重裕斗
(鹿島学年浜松3年)

副将 初段 大賀稜也
(富士高3年)

大将 初段 大川裕生
(三島長陵高3年)

準決勝で、神奈川県チームに敗れましたものの、大変素晴らしい成績を取ることができました。2年連続で3位の成績は賞賛に値します。中堅の守重君は男子90kg級で全国制覇を達成しています。「昨年の2位という結果を踏まえ、今年こそは絶対に優勝する」という強い気持ちで試合に臨んだことが結果につながつたと思います。

組織改編で新たな船出

平成29年度、静岡県柔道協会は大胆な組織改編を行った。その大きな狙いは以下の4点に集約される。

- (1) 「大会事業部」「静岡県少年柔道協議会」といった部署を創設する事で役割分担を明確にする。
- (2) 従来組織を細分化して、仕事の効率化を図る。
- (3) 柔道人口の減少に歯止めを掛けるべく、各部署で検討した意見を集約していく。
- (4) 県柔道協会創立70周年記念事業及び2020年全国中学校総体開催に向けた体制作りと準備。

(1) について、「大会事業部」とは柔道協会主宰の大会を実際に運営する部署であり、今まではこうした組織がまままま多くの協会員にお願いしてきた。この部署を立ち上げることで各委員会や部会とのスムーズな連絡・協働が可能になると考える。また「少年柔道協議会」は3地区の少年関係組織と連携することで、あるべき姿が構築されていくことを考慮して

のものである。

(2) 以前は「普及・広報」が一つの委員会として存在するなど、組織としての動きが今ひとつ俊敏ではなかった反省を踏まえ、以前の組織から次に示す各委員会に分割した。

- A 審判委員会
- B 形技術向上委員会
- C 普及委員会
- D 広報委員会

こうした組織改編は、早速効果を上げ始めている。一つ例をあげると、形技術向上委員会が設立されたことにより、東海地区形競技会において四部門(投の形、固の形、極の形、古式の形)で優勝し全国大会へ出場するなどの結果を得ることができた。また普及委員会では少年柔道協議会と連携して全柔連から講師を招いての少年柔道教室を開催するなど、組織として積極的な動きが見受けられるようになってきている。

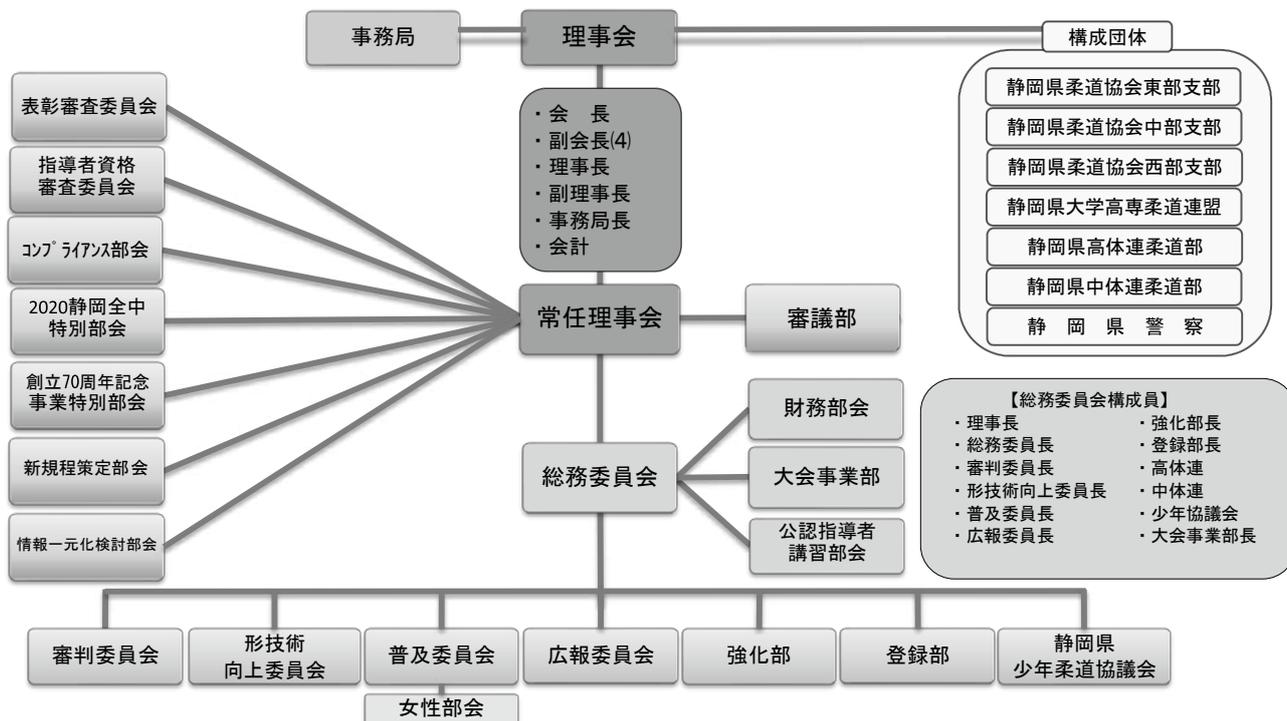
(3) 現在、どの分野でも「少子化」が問題視されている。特に近年の柔道人口の極端な減少に歯止めがかからないのは喫緊の課題である。多くの場所で多くの意見

を出し合い、よりよい形を模索するためにも、多くの意見を集約できる体制作りが必要と考えた。

(4) 今年度は県柔道協会創立から70年を迎える。その記念事業を行う上でも組織改善を進めた。また2020年全国中学校総体開催を控え、特別部会を設置して大会を成功裏に導く支援体制を作った。

この取り組みを成功させ、柔道協会がさらなる発展を遂げる上で欠かせないのは、協会員相互の意識の高揚である。協会員の後押しなくしてこの新たな船出は成り立たない。執行部も各委員会や部会と連携していくための方策として組織改編を実行した。効率的且つ横断的な、そして何よりも強固な組織運営が持続可能であることを目指している。節目の70周年を迎え、さらに10年後、20年後への躍進・発展を視野に入れていく事にご理解をいただき、是非皆様のお力を持つてこの事業を推進していきたいと考えている次第である。

静岡県柔道協会 組織図(平成30年度~)改正案



訃報



瀧井康次郎 八段

平成二十九年三月四日逝去
行年八十七歳

静岡県柔道協会副会長として
永年活躍された先生は、小学校
五年生より柔道を習い始め、静
岡中学（現静岡高等学校）を卒
業後、静岡柔道倶楽部創設と同
時に入門。故大蝶美夫師範、西
田亀師範に師事。持ち前の粘り
強さと意欲によってメキメキと
腕を上げ、若手の中心選手とし
て活躍。

昭和四十三年五月に自ら経営
するタキイ輪店内に瀧井道場を
開設。家業に励むかたわら道場
に掲げる「勇猛精進」をモツ
トーに、自らの修行に一層磨き
をかけるとともに、後進の育成
をする。その後門弟も増え、道
場が狭くなり平成元年に二階に
五十六畳の道場を改築。言葉数
は少ないものの、教え子ひとり

ひとりについてメモを取るなど、
多年にわたる熱心な指導を通し
て柔道発展に貢献された。

一方では、県内各種の大会に
て形の演武をされ、平成九年度
第一回全国形競技大会に東海地
区代表で、古式の形田中秀幸先
生と出場し、平成十一年度一月
には日本武道館鏡開き式に柔道
界を代表して、古式の形を演武
するなど特に形に向けての情熱
は大きかった。

また形の練習のために瀧井道
場を訪れた人々に丁寧に指導さ
れる姿をたびたび見かけた。加
えて、西田亀先生と古式の形を
毎年のように大会の折に披露し
てくださったことなど、静岡県
の形の普及発展に尽くされた功
績は計り知れない。瀧井先生の
ご冥福をお祈り致します。合掌。
（静岡県柔道協会中部支部熊谷幸
洋）



稲葉茂男 八段

大正四年十一月二日生まれ

先生は去る平成二十九年五月、
一〇二歳をもって天寿を全うされ
ました。

日本体育大学の前身、日本体
育専門学校を卒業された後、整
復師の道を歩きましたが、指
導者の道忘れ難く昭和二十七年
四月、県立静岡商業高校に赴任。
三十七年三月まで獅子奮迅の勢い
で柔道指導に心血を注ぎ、卓越し
た指導力と情熱で静岡柔道部こ
にありを県下に知らしめた。

インターハイ出場二回の実績と
同時に国体少年監督としても十
回の出場など、指導者としての実
績と同期に、高体連柔道部長とし
ても昭和三十三年から五十一年ま
での十九年間にわたる重責を担っ
てきました。さらに県立静岡工業
高校、再び静岡商業高校、静岡
学園高校と指導者としての道を貫
き通し、その卓越した指導力と情
熱は止むことがありませんでした。
また生徒の急増期に合わせチーム
数も増え、中・高校急成長の時代
でもありましたが、それらの状況
を無難にまとめ、大会等の運営面
にも手腕を発揮され、質量に併せ
た解決ともなりました。一方、県
柔道協会においては、昭和三十三年
以降役員として活躍され、強化

委員・理事・幹事長・副会長として
また機構改革に伴って昭和六十二
年新設された初代理事長に就く
など、会運営の要となつて事に当
たつてきました。

長年に亘るこれらの功績が認
められ、静岡県体育協会体育章、
叙勲、日本スポーツグランプリ顕彰
（九十九歳で授彰）等の榮譽に浴
しています。

謹んでその遺徳を偲び、偉大な
先生の足跡に畏敬の念を抱きつづ
合掌とします。

西部支部形講習会

西部支部の形講習会が8月
27日（日）審査会終了後に開
催された。昨年度に引き続き
固の形を、森田氏（JR東海ツ
アーズ）、猪又氏（JR東海）
が担当した。この二人は今年度
東海地区代表として、全国形
選手権大会に参加している実力
者である。

森田氏が取、猪又氏が受を
担当し、細かな所作や流れるよ
うな抑え技の攻防、絞め技・関
節技の理合などを学習した。特
に抑え技の攻防の激しさや関節
技の間合いなど、形の競技者な
らではの観点を知ることができ
た。

柔道は相手と組み合つて勝負
を決する『試合』だけでなく、
形の理合を学ぶことで崩しや体
捌きを理解することが重要だと
感じている。
この講習が
地区形講
習会に役
立つことを
願つてやま
ない。



